

# 久留米市雇用優良事業所表彰

高齢者・障害者の積極的雇用、仕事と家庭の両立支援などを積極的に行っている市内事業所を表彰することにより、地域の雇用促進・安定に資することを目的とし、昭和53年から実施しています。平成19年度の受賞事業所は、下記の4事業所です。

## 障害者雇用優良事業所

### 医療法人 堀川会 (医療福祉・西町)

#### ●●● 受賞のポイント ●●●

長期にわたり障害者を雇用し、障害者雇用促進に協力・貢献している。近年は、福岡県障害者雇用支援センターの知的障害・重度知的障害を持つ職場体験実習生を新たに1名ずつ雇用。働きやすい職場環境作りに努め、その定着が図られている。他に、身体障害者5名（うち、重度身体1名）を雇用している。

「はじめは障害者に対して、どう接したらいいのだろう…と戸惑うこともありました。

今は、障害者も健常者も同じだと思っています。得手・不得手をきちんと判断して指示すれば、彼らも責任をもってしっかりと仕事をしてくれます。」と、堀川会・介護老人保健施設（サンダイヤル）の看護師長・春口さんは話した。

こちらの施設では、2人の知的障害者が働いている。2人とも、入所者の居室・廊下や食堂などの清掃や、配膳補助業務などを担当。入所者との交流を楽しみながら、仕事に真剣に取り組んでいる。看護師長は、「着実に成長しています。」と今後に期待をかけている。



フロア清掃後の後片付けをする栗並さん



食堂清掃中の坂本さん

## 仕事と家庭の両立支援モデル事業所

### 株式会社クローバーサポート (人材派遣・天神町)



笑顔で答える斉藤社長



お散歩中の子どもたち

#### ●●● 受賞のポイント ●●●

登録派遣社員を含む社員が、系列の託児所を利用した場合、費用の一部を補助している。従業員の子育ての状況にあわせ、パートタイム勤務やフルタイム勤務等の配慮をしている。また、子の看護休暇を『有給休暇』とするなど、子育て中の従業員が『子育て支援制度』を利用しやすい風土作りに努めている。

自身の子育て経験から、『子育て中の母親が働ける環境を作ろう!』と一念発起、派遣会社を立ち上げた斉藤社長。介護事業、グループ企業で託児所の運営などを手掛けている。「なかなか大変ですけどね!」

1歳7ヶ月のお子さんのいる従業員の江頭和妙さんは、育休復帰を決意したきっかけの1つとして、『うちには託児所もあるし、がんばって戻って来なさい! 待っているからね!』という社長の一言をあげた。

復帰時は時短勤務を選択し、現在はフルタイム勤務をしている。

江頭さんは、「短時間で効率良く仕事できるようになりました。今、責任ある仕事を任せてもらっていてうれしいです。職場は、私自身のスキルアップの場でもあります。」と、以前にもまして、前向きに仕事に取り組んでいる。



## 仕事と家庭の両立支援モデル事業所

### 医療法人 松風海 内藤病院 (医療福祉・西町)

#### ●●● 受賞のポイント ●●●

育児休業等を自然に取得できる職場風土がある。託児所を設置し、日祝日も対応（お正月3日間とお盆1日は除く）。長期休暇中（夏休みなど）の学童あずかりも実施。特筆すべきは、他事業所の従業員の託児も受入れ、更に通院者や一般市民の利用も可能としていること。市内中心部において、地域ニーズの受け皿になっている。



託児所の様子



ワーキングママ  
久保山さん

**従業員アンケートでの要望**をきっかけに、平成3年に託児所を設置。「子どもを抱えながらの仕事の大変さは知っていましたので、託児所設置にすぐとりかかり始めました。」と、副院長は振り返る。

今、多くの従業員がこの託児所を利用しながら仕事に取り組んでいる。2歳半のお子さんを持つ看護師・久保山さんもその1人。「【子育てし易い職場環境】が大事です。この仕事は、ずっと続けていきたいです。」と、話す。

## 仕事と家庭の両立支援モデル事業所

### 株式会社テクノ・カルチャー・システム (ソフトウェア開発・合川町)

#### ●●● 受賞のポイント ●●●

管理職が積極的に声掛けをし、学校行事（運動会）などで有休取得しやすい職場環境作りをしている。女性従業員で育休対象者は全員取得している。社員全員を対象としたフレックスタイム制度（コアタイム13～16時）を導入。また、時短勤務正社員制度（6時間・7時間タイプ）も導入している。



「厳しくも愛情を」  
中村社長

「働き易い環境を整備することで効率良く仕事をしてもらうこと、短時間の中でもきちんと成果を出すことは会社としても望ましい」と語るのは、創業者でもある中村社長。「人生は、仕事だけではありません。」「採用した人材がしっかりと成長し、良い人材が定着することがあるべき姿」というお話の隅々から、労働福祉としてだけではない『会社として両立支援に取り組む効果』がうかがえた。



2児のワーキングママ  
峯田さん

峯田明子さんは、2児のワーキングママ。「時短制度が無かったら、仕事を続けていられなかったかもしれません。フレックスタイムを利用しながら時間をやりくりして、学校行事などにも参加しています。ありがとうございます。」と率直な気持ちを話した。